

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2376200149		
法人名	有限会社 おおぎもと		
事業所名	グループホーム JO・さざんか		
所在地	豊田市大蔵町大木本16番地1 (電話) 0565-60-0150		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年10月20日

【情報提供票より】(19年8月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年4月4日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	19 人 常勤 4人, 非常勤 15人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年8月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	1名	要介護 2	6名		
要介護 3	1名	要介護 4	0名		
要介護 5	1名	要支援 2	0名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	76 歳	最高	100 歳
協力医療機関名	足助病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山あいの地にあり、隣は水田、裏山にはホームの名前となっている大きな山茶花の木があり四季折々の自然が楽しめる環境にある。居間や食堂などの共用スペースは古い民家を活用しており、昔ながらの静かで落ち着いた空間となっている。職員は理念に沿い思いやりや感謝の気持ちを持ち入居者に接しており、入居者、職員が共に仲良く和やかに暮らしている。リハビリにもなるように言葉を選んで作ったカルタや下絵を書いた縫い物など一人ひとりのできること、得意なことに合わせた工夫が見られ、本人本位のケアが行われていることが伺えた。家族からも高い評価を得ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員が話し合い、できることから改善に取り組んでいる。家族への情報提供では口頭での報告だったが、ホーム便り「さざんかのやど」を月に一度発行して、行事や入居者の日々の様子を書面で伝えている。介護計画の見直しでは、実施期間を明示し実情に応じてきめ細かい見直しをしている。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 今回の評価に際しては所長が職員に話しをし、自己評価には全員が取り組んだ。初めての取組みであり項目が多くて内容が難しかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6) 外部評価の結果報告、行事や生活、職員の気づきが報告され、ホームの様子が具体的にわかりやすく伝えられている。話し合いの中で運営推進会議規定作成を決め、内容の検討を重ねてきた。また職員の話聞いた家族からの提案で「リスクについてのご理解書」を作成することになり、文面を検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 職員は家族が何でも気軽に話せるよう心がけており、面会の際などに話を聞いて意見、苦情などあれば職員間で話し合っ対応している。運営推進会議でも家族の意見が出ており、運営に反映されている。家族会では親睦を深めながら情報交換を行っており、意見等を出すことができる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者も職員も地元での生活者が多いことから、地域に馴染んでいる。ホームから地区の芸能発表会や保育園の発表会を見に出かけたり、散歩の時には近所の人たちと気軽に声をかけ合っている。また、保育園児や小学生が訪れ交流をしている。職員のこどもが遊びに来て手伝いをするこもあった。地域とは何かの時には協力し合える関係となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	思いやり、いたわり、感謝の気持ち表す「恕」の精神に基 づき、一人ひとりが明るく生きがいを持って安心して暮ら せる場を目指した理念となっている。また、基本方針とし て一人ひとりの思いを大切に、平等、公平に誠意を持っ て接する等を掲げている。		地域密着型サービスの役割を考えながら、 理念の中に地域とのかかわりについても織 り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝の引継ぎの際に、理念や基本方針を唱和し、気 持ちはひとつにしてから業務についている。所長、管理者 は折に触れ理念に基づいた話しをしており、職員一同理念 の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	入居者も職員も地元での生活者が多いことから、地域に馴 染んでいる。ホームから地区の芸能発表会や保育園の発表 会を見に出かけたり、散歩の際は近所の人たちと気軽に声 をかけ合っている。また、保育園児や小学生が訪れ交流を している。職員のこどもが遊びに来て手伝いをするこ ともあった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回の評価に際しては所長が職員に話しをし、自己評価に は全職員が取り組んだ。前回の評価で改善が求められた項 目については、できることから改善に取り組んでいる。家 族への日常の様子の報告では、口頭での報告に加えホーム 便り「さざんかのやど」を月に1度発行して入居者の日々 の様子を書面で伝えることとした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治区区長、包括支援センター職員、入居者家族がメンバーとなり、2カ月に1度開かれている。外部評価の結果報告、ホームの行事や生活、職員の気づきの報告が行われたほか、運営推進会議規定を作成している。また、家族からの提案により、職員が安心して働けるように「リスクについてのご理解書」を作成することになり文面を検討している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>所長は市の認知症ケア体制推進委員会の委員であり、認知症に対する理解を深める活動には積極的に協力することを伝えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会の際に個々に話しをする他、毎月1度ホーム便り「さざんかのやど」を発行し行事や日々の様子を伝えている。体調変化などあった場合や必要な場合は、電話連絡をしている。買い物などは立替っており毎月領収書をつけて請求している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などに話しを聞き、意見等あれば職員間で話し合っ て対応している。運営推進会議でも意見が出ている。家族会として、クリスマス会兼忘年会で交流や情報交換をしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はなく、退職も少ない。職員が辞める時には、入居者に説明するが、ダメージを防ぐため入居者によっては伝えないでおくこともある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われている全員参加の会議の中で研修を行い、外部の研修にも参加している。所長は会議の際、ワンポイントレクチャーを行ったり、業務の中で職員を指導している。新人にはベテラン職員がついて指導している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム協議会に加入し、研修会などに参加している。参加した職員は、情報交換し他のホームの様子を会議で職員に伝えサービスの向上につなげている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前には、本人も一緒にホームに来てもらい見学してもらっている。居室が空いていればショートステイも利用でき、ホームでの生活を体験してから入居することもできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として一緒に過ごしなが、入居者から料理や裁縫など生活の知恵を学んでいる。入居者、職員がお互いに「ありがとう」を言い合い、「助かったよー」の言葉を返している。所長の靴下を入居者が纏ってくれたこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアの中で、入居者の言葉や行動から本人の気持ちを汲み取るようにしている。また、過去の生活を知ることでも大切と考え、希望や意向の把握に努めている。あまり話さない場合や把握が困難な場合には、職員が話し合っ本人本位に検討している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントはケアチェック表を用いて、本人の状況をきめ細かく把握している。本人や家族からは、日頃の関わりの中で意見や思いを聞き、職員が日々の気づきや意見を書いている「なんでもノート」や会議での話し合いから課題を汲み取り、介護計画につなげている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>常に話し合ったことを介護計画に載せていくようにしている。生活の様子をよく見て、朝の引継ぎ時間や月1回開催される会議で情報交換や話し合い、原則的には3カ月毎に介護計画の見直しを行っている。必要時には、臨機応変に見直しを行い介護に活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>共用型デイサービスを考えることはできるが、現在実施はしていない。医療連携体制加算の申請やショートステイを実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>9名中7名は以前からのかかりつけ医対応としており、職員が通院に付き添っている。家族への報告もきちんと行われ、家族に喜ばれている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に伴う意思の確認書はとるようにしている。同意書に「わかりません」と書く家族もある。家族の気持ちも汲み取りながら、早期からの話し合いと関係者全体の方針の統一のため、状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと段階的な合意の必要性からキーマンと所長の間で話し合いがもたれ、重度化に伴う意思確認書をつくっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>尊厳ある姿を具体的に表せるよう支えることは、表札をはずすことがまず必要と考えた。所長の思いで、慣れない新しい入居者以外の人々の表札をはずした。この思いに至ったのは、見学等で地域の人々が来訪され、表札を見て話題になる現実に触れたためである。居室間違いなど大きな混乱もなく過ごしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人らしい暮らしをしていただくには、ほめたり、励ましたり、できる事を見つけて支援することが大切と考えている。ポーっと過ごさない介護に努め、職員同士の話し合い、気づきから、雑巾1つにもただ縫うだけではなく、絵を布に描いて縫ってゆく等、楽しい雑巾づくり、新しい住人に贈る暖簾づくりなど工夫している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れ肉、魚等、多くの食材を使用した献立となっている。食材の準備等を入居者と職員が一緒に行い、調理は主に職員が行っている。食事の後片付けや食器を布巾で拭く作業は入居者が手早く器用に行っていて、入居者の表情は男性も女性も穏やかであった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ入居者の希望に沿って行っているが、現状では14時～15時半の時間帯で入浴を安全に楽しく行えるよう援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の過去を理解し、できることを支援することで「わしでもできた」と本人に自信を持ってもらえるよう取り組んでいる。縫い物やゴムとおし、繕い物など得意なことをしてもらったり、カルタや豆拾い等、レクリエーションを楽しんでいる。気晴らしとして特に独居の入居者と車で出かけ、「家の近くに行くからちょっと寄っていく？」とさりげなく声をかけ寄っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい時は毎日近くのお地藏様まで散歩に出かけるが、暑い日の散歩は控え、外にある新聞受けまで職員と一緒にとりに行くようにしている。ドライブにもよく出かけ、買い物や入居者の自宅に寄って、閉めきった戸を開け、風を通し草取りをして帰ることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	体操やレクリエーション等を行い、皆で過ごす時間を多く設けている。職員の目も届きやすいので、注意の必要な入居者の安全も保っている。入浴の時間には職員が目が届きにくくなるため、玄関のみ施錠している。職員の勤務時間等で、施錠をしないですむ方法を探したが、家族とも相談し、入浴時や職員の状態によって施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。前回の会議で決定し、9月から毎月突然の災害に備え避難訓練を行うことになった。		運営推進会議を通して、地域の方にも協力を呼びかけたり、災害時の備蓄品について準備されることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、水分摂取量等について、月2回の体重測定や、水分のおおよその量は把握されていて、留意すべき点について、特に水分を多く希望しない利用者に気配りしていると職員からの話もあった。		栄養摂取カロリーについては、見直しも兼ね1度専門職からアドバイス等を受けることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は古い民家を利用している。畳の部屋が2間つづきで落ち着ける場所になっており、奥の部屋にはすぐにも横になれるオープンベッドがある。毛系のセーターを被せた手作りの座布団や、布切れや裁縫道具、まだまだ縫ってみたいくなるような雑巾の材料や職員が工夫したかるた等、色々と興味をさそう工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が居室の換気や室温、清潔に配慮し、窓を開け枕に陽が当たるようにしたり、ベッドの布団を陽に当たるよう配置している。各々の馴染みの小物や家族の写真を飾ったり、ソファを置いている人、植木を世話をしている人等、好みの居心地よく過ごせる居室になっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。